



長縄にかけるクラスの思い（長縄記録会）

前回の値小だよりでもご案内しておりましたが、小値賀小では恒例になっております長縄記録会を2月19日（火）に行いました。どのクラスも昼休みや放課後みんなで練習してこの1回にかけます。3分間で合計何回跳べるかの記録です。ひっかかっても、そこから続けて数えていきます。たぶん、日本人だったら誰しも経験があるだろう長縄跳び。誰だって、最初から跳べるはずがありません。私も小学校低学年の頃は、あのぐるぐる回る縄のどのタイミングで入ったらいいかわからず、意を決して入っては失敗していたことを覚えています。上から降ってくる縄が怖くて目をつぶって跳んでいたような思いもあります。今思い出してみると、降ってくる縄が怖かったのか、失敗して笑っているみんなの声が怖かったのかわかりません。そんな中、誰かが背中を押してくれたり、励ましてくれたり、そして跳べるとみんなが喜んでくれたり。1本の長縄の下で、ちょっとしたドラマが展開しています。

小値賀小の子どもたちだって同じ。失敗するのを嫌って練習から抜け出す子がいたり、ちょっとしたトラブルがあったりしてこの日です。これまでの自分たちの記録をもと

に目標回数を設定。その目標回数を目指してクラスで心を一つにします。そんな中、設定目標をクリアできるクラスもあれば、残念ながら目標に至らないクラスもあります。大切なのはそれまでの過程です。心を一つにするとはいったいどんなことなのか、誰でも失敗や成功を繰り返す中で集団の一員としてどうすればいいのかを学ぶ場です。

保護者の皆様がたくさんのご声援もありが



とうございました。ご声援あってのがんばりです。

そんな長縄記録会でしたが、翌日担任に届いた連絡帳でのお便りを一つ紹介します。なお、掲載につきましては、ご本人の承諾得ておりますこと、個人名は差し控えさせていただきますことを申し添えます。

長縄大会、ものすごくみんなの一致団結した姿、成長した姿を見られた時間でした。〇〇さんのお母さんが、「みんなのおかげで今の〇〇がいる」と話していて、改めて、子育てのあり方、考え方、これからの子どもたちの成長とともに私たち保護者も悩みを共感できたらと思いました。ご指導いただきありがとうございました。

このお便りをくださったお母さんも、「みんなのおかげで今の〇〇がいる」と他の保護者の皆さんの中で語ってくださったお母さんも、なんて素敵なものを見方をしてくださっているのだろうと思いました。



もう一昔も二昔も前から「孤独な子育て」という言葉がネットで取り沙汰されていたり、報道で取り上げられていたりします。親である以上、我が子の成長を願うのは当たり前。でも、我が子の成長を他人と比べることなく、この子の成長としてとらえ、関わってくれる友だちに感謝をもつことや、他人のお子さんの成長を見とり、それを喜びに変えることができれば、子育ては何倍も面白くなるはずです。一人の子どもの成長は、その子だけの成長ではなく、周囲あつてのもの。周りも成長しているのです。そして、周囲の成長があったからこそ、この子の成長があるのだと思います。だから集団なんだと思います。一人を育てることはその子の目を通してみんなを育てること。そんな会話ができる小値賀小のお母さんたちに拍手です。



大島分校作文発表会

2月26日(火)大島分校では恒例の作文発表会が開かれました。大島分校は今年度、女の子ばかり6名の学校です。4年生を最高学年に1年生までの4学年の在籍です。毎回のことですが、この6名の子どもたちの応援に島中の皆さんが分校に駆けつけてくださいます。この日は30人を超す応援団でした。子どもたちはというと、1年生からほぼ暗記。しっかりと大きな声で、自分の思いが伝わるように発表しています。ちょっと忘れて止まってしまうことがあっても、そこは度胸。多くの応援団があるからそのドキドキ感で、達成感です。

どの作文も大変良かったのですが、感性が素晴らしかったこの作文を一つ紹介します。

(乃愛さんのおばあちゃんは、昨年亡くなっています。)

ばあちゃん、たこをあげてくれて ありがとう

2年 濱田 乃愛

生活科でたこを作りました。ほいくしよでたこを作ったり、あげたりしたことがありました。でも、学校では作り方がちがったので、むずかしかったです。わたしは黄色のビニールぶくろをつかって、たこをつくりました。空に高くあがってほしかったので、大すきなばあちゃんの絵をかきました。絵をかきながら

「ばあちゃんが、高くあげてくるかなあ…」
と思いました。

たこが、かんせいしました。わたしは、
「ばあちゃん、あげてね!」

と大きな声で言いました。そして、風に向かって走りました。
2、3回とばしたら高くあがりました。

「やったあ、ばあちゃんがあげてくれたぞ。」

と思いました。たこ糸をのぼすと、どんどん空高くとんでいきました。

「やったあ、とんだあ。」

と思いました。たこ糸がぴんと引っぱられました。ばあちゃんのたことつな引きをしているように糸がおもたかったです。たこの力が強くて、糸をにぎっていた手がいたくなりました。手をはなしたしゅんかんに、糸が切れたようにもっと高く飛んでいきました。

「あっ、とんでいった。どうしよう。」



と思いました。でも、もうたこ糸には手がとどきませんでした。
「たこはなんでとんでいったんだろう。もしかしたら、ばあちゃんのもとへとんでいったかもしれないな。」
と思いました。

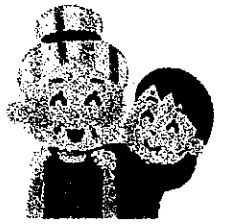
とんでいったたこを、昼休みにはま田先生がを見つけに行ってくれました。あかおのブロッコリーばたけをさがしたそうですが、見つかりませんでした。わたしは、

「きっと、ばあちゃんのゆうびんポストにとんでいったんだろうなあ。」
と思いました。

「ばあちゃん元気ですか?のあは元気だよ。」

のあなたこをあげてくれてありがとう!

たこはとんでいったけど、わたしの気もちはばあちゃんにとどいてくれたんだと思います。とっても楽しいたこあげでした。



家族に感謝、1/2成人式 2月27日(水)



4年生は、この年で10歳。20歳の半分ということで1/2成人式を行います。一人一人自分の名前の由来と将来の夢を発表し、私から1/2成人証書を手渡されます。

そして、誓いの言葉として、参観されている保護者の皆さんに呼びかけと一人一人が自分のお父さんやお母さんに手紙の贈呈。お父さんやお母さんからもお返しの手紙をもらいます。子どもが親の前で自分の手紙を読み、親も子どもを前にして手紙を朗読。双方にちょっと恥ずかしいけど、またとない機会です。歌「10歳を迎える日に」を歌った後は、保護者代表(中野さん)から言葉をいただいて終わりでした。

一人一人の名前は、親が子どもの将来を描いて作った世界で一番愛情のある短い詩。ここまで育てくれたこと、ここまで育ててもらったことを確認する日でした。

小さかったころには 気づかず歩んできた たくさんの思い出と
あふれるやさしさが いつもそばにいてくれた
ここにぼくがいて 家族がいる 先生がいて 友達がいる
10歳を迎える記念の年に たくさんの「ありがとう」を伝えたい

歌「10歳を迎える日に」より

